

2015年度のCERCの活動について

2011年1月に発足した宗教文化教育推進センター（通称CERC）は、宗教文化士の認定に関わる業務と、宗教文化教育の充実に関わる業務を行っている。後述するように2015年度には6月28日に第8回、11月15日に第9回目の宗教文化士認定試験が行われ、第1回試験からこれまでに216名の宗教文化士が誕生した。また、宗教文化士試験の過去問題を活用した問題集も作成されるなど、センターの活動はさらに充実したものとなっている。なお、2014年度までの活動については、『日本文化研究所年報』第8号を参照されたい。

2015年度のCERCの活動は國學院大學特別推進研究助成金「国際的視点からの宗教文化教育教材の総合的研究」（代表：井上順孝）との連携によって進められた。以下、(1)宗教文化士認定試験の実施について、(2)宗教文化士へのサポートについて、(3)宗教文化教育推進のための教材作成について、(4)宗教文化士資格の更新について報告し、今後の展望を提示する。

(1) 宗教文化士認定試験の実施報告

第8回認定試験は、2015年6月28日（日）に行われた。東北大学・國學院大學・皇學館大学・関西学院大学・天理大学の5ヶ所を会場として、受験者は26名、合格者は17名であった。

続く第9回認定試験は、同年11月15日（日）に國學院大學と関西学院大学の2ヶ所で行われた。受験者は20名、合格者は13名であった。これまでの試験問題と解答、および結果

はCERCのWebページ上で公開されている。

本年度からは受験資格が拡大され、これまでの大学生、大学院生、教員に加えて報道関係者にも受験資格が認められるようになった。現職の報道関係者（新聞社、テレビ・ラジオ局）で、3年以上の記者経験を持つ人を対象とする。受験申請の際に、宗教に関係があると思われるこれまでの取材経験を報告し、センターに認められた場合受験が可能となる。さらに、来年度（2016年度）からは九州大学が受験会場に加わることも決まり、今後の受験者の広がりが期待される。

試験合格者については、2013年度までの28大学に加え、本年度新たに九州大学、国際基督教大学、ルーテル学院大学の3大学から宗教文化士が誕生した。これまでに資格取得者が出た大学は以下のとおりである。

愛知学院大学、大谷大学、オーストリア国立ウィーン大学、関西大学、関西学院大学、九州大学、皇學館大学、國學院大學、国際基督教大学、駒澤大学、首都大学東京、上智大学、清泉女子大学、相愛大学、大正大学、東京外国語大学、東京大学、東北学院大学、東北大学、東洋大学、同志社大学、中央大学、筑波大学、天理大学、北海道大学、八洲学園大学、立教大学、立正大学、龍谷大学、ルーテル学院大学、早稲田大学

2016年度からは参加大学も3大学ほど増える予定になっている。参加大学になっている大学では、認定試験に必要な科目が学生に公開されている。

(2) 宗教文化士へのサポートについて

CERC では、宗教文化士の資格取得後も宗教文化に関する情報を得るためのサポートの一環として、『CERC メルマガ』を年に4回発行している。メルマガでは、宗教文化に関わる最新のニュースを解説とともに紹介。また、講演会やシンポジウムの情報も掲載されている。2015年度末時点で、15号まで発行された。このメルマガは、宗教文化士資格の更新の際にもレポートのテーマとして活用されるため、今後さらに重要度が増していくものと思われる。

また、CERCのWebページには「宗教文化士専用掲示板」が用意されており、受動的にニュースを受け取るだけでなく、能動的に疑問点などを質問することができるようになっている。パスワードで保護された宗教文化士専用ページでは、こうした掲示板の他、メルマガのバックナンバーも自由にダウンロードできるようになっており、宗教文化についての近年の動向を知ることができる。

(3) 宗教文化教育推進のための教材作成について

CERCのHPでは、宗教文化を学ぶためのオンライン教材として以下のものを提供している。

- ①「宗教文化を学ぶための基本書案内」
- ②「世界遺産と宗教文化」
- ③「映画と宗教文化」
- ④「博物館と宗教文化」
- ⑤「宗教文化に係る基本用語クイズ」

本年度も、これらの教材の内容の拡充を行った。

また、認定試験時に行うアンケートでは、書籍の形で参照することのできる教材を希望する声が毎回多く挙がる。宗教文化士認定試験に関連の深いテキストとしては、これまでに、井上順孝編『要点解説90分でわかる！

ビジネスマンのための「世界の宗教」超入門』（東洋経済新報社、2013年）と櫻井義秀・平藤喜久子編『よくわかる宗教学』（ミネルヴァ書房、2015年）が刊行されている。特に後者の巻末には「宗教文化士試験問題例と解説」が付されており、各試験から抜粋された問題によって、認定試験に触れることが可能になっている。2015年度は、これらに加え、過去に宗教文化士認定試験で出題された問題200問に解説を付した冊子『日本と世界の宗教文化一問題を解きながら学ぶ』（井上順孝編集責任、國學院大學）が刊行された。各分野の専門家たちによって記された解説文はコンパクトで読みやすく、受験者や宗教文化に興味をもつ人々にとって格好の教材となる。また、同書を英訳した *Workbook for Learning Religious Culture in Japan and the World* も同時に刊行された。日本の宗教文化教育の試みを海外に発信する際などに極めて有用なものである。

(4) 宗教文化士資格の更新について

宗教文化士資格は取得から5年間の有効期限が設けられており、2016年度より順次更新が始まる。更新のためには、(a) e-learningによる学習、(b) CERC指定の講演会などの聴講とレポート提出、(c) メルマガの記事をもとにしたレポートの提出、(d) 体験に基づくレポートの提出、の4種から1つまたは複数を選び、計3ポイントが認められることが必要となる。更新が認められると、終身資格の「上級宗教文化士」（仮称）が与えられる予定となっている。これらのうち、(d)の体験に基づくレポートは、当センターにとって、宗教文化士資格が実際に社会の中でどのように活用されているかを知るよい機会となるだろう。更新期間や更新方法の周知については2016年度前半になされる予定となっている。

(村上晶)